

大規模地震災害時における 子供・親・教職員の行動に関する一考察 ～石川県の幼稚園・保育園を対象として～

村 一翔¹・藤生 慎²・高山 純一³
Kazuto MURA¹ and Makoto FUJIU², Jyunichi TAKAYAMA³

¹金沢大学大学院 自然科学研究科 環境デザイン学専攻

Department of Environmental Design, Graduate School of Natural Sciences, Kanazawa University

²金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系

Earth Sciences Infrastructure, Science and Engineering, Kanazawa University

³金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系

Earth Sciences Infrastructure, Science and Engineering, Kanazawa University

In the event of an earthquake, it is difficult for infants and young children to evacuate by themselves, even among disadvantaged weak people, and assistance of teachers and parents such as kindergartens and parents who are the main bodies of infants is indispensable. In order to protect the lives of infants at the time of an earthquake disaster, it is necessary to grasp the behavior of teachers and parents. Therefore, a questionnaire survey was conducted for teachers and parents such as kindergartens in Ishikawa prefecture for the purpose of grasping the behavior at the time of the earthquake disaster by the entity that handles infants. In this research, we compare behavior of earthquake disaster against comprehension degree of secondary disaster caused by earthquake disaster by parents. It turned out that there was a difference in behavior between parents with high understanding and those with low understanding.

Key Words : large-scale earthquake disaster, children, childminder, parents, behavior analysis

1. はじめに

近年、我が国では東日本大震災や熊本地震など大規模な地震が多発している。災害時、自力での避難が通常の者より難しく避難行動に支援を要する人々を災害弱者と言ひ、それらは CWAP(Children・Women・Aged・Poor)と称される。CWAP の中でも子ども、特に乳幼児は、地震災害時に限らず自己判断力が低い。地震災害という非日常的な状況においては、より自己判断能力が低下し、自力での避難が困難となり、乳幼児を取り巻く環境下の大人の助けが必要不可欠である。乳幼児の多くは、幼稚園・保育園に預けられているため、大規模地震が発生した際に親のもとを離れている可能性が高い。地震災害発生後、乳幼児の命を守るためには、幼稚園・保育園の教職員の適切な判断が必要である。東日本大震災において、保育中の園児が犠牲になった事例がある。宮城県山元町保育所では、地震発生後、町役場に指示を仰いだ結果「現状待機」との指示を受け、園庭で待機を続けたが、その結果、津波を確認してからの車での避難となり、また、職員 1 人と園児 3 人の 1 台目、職員 1 人の 2 台目、所長を含む職員 3 人と園児 1 人の 3 台目までは難を逃れたが、4 台目以降は津波に襲われた。最多の園児 5 人を乗せたワ

ゴン車が 6 台目だったため、3 人の園児が犠牲となった。当保育所は海岸から約 1.5 キロの場所に位置するにも関わらず、津波を想定した避難行動計画はなかった¹⁾。宮城県石巻市の石巻みづほ第二幼稚園では、園に残っていた 11 人の園児は難を逃れたが、すでに帰宅していた 7 人の園児と、地震後、親に引き取られた 1 人の園児が犠牲となった。また、当幼稚園は震災当時、約 140 人の子どもたちが通っていたため、その全員が園に残っていた場合どうなっていたかと園長がコメントしている²⁾。地震災害発生後の乳幼児の命の安全は、教職員の判断・行動に大きく依存する。そのため、すべての教職員が地震災害発生時に自園がどのような状態に陥る可能性があるかを正しく理解し、適切な避難行動をとり、全園児を無事、親のもとへ帰す義務がある。しかし、そのためには、教職員だけでなく親も園がどのような避難行動をとるか理解し、適切な避難行動をとる必要がある。乳幼児を取り巻く環境下の主体の 1 つである教職員と親が、お互いにどのような避難行動をとるべきなのかを事前に理解し合うことによって、被害を最小限に抑えることが出来る。

本研究では、大規模地震災害時に、子どもを無事かつ円滑に親へ引き渡し、被害を最小限に抑えるためには、教職員だけでなく親も園の教職員がどのよ

うな災害時の行動をとるのか正しく理解し適切な行動をとる必要がある。乳幼児を取り巻く環境下の主体である教職員と親が、どのような災害時の行動をとるか、また両者に、どの程度のギャップが存在するのかを把握しておく必要がある。よって本研究では、石川県内の全認定こども園・幼稚園・保育園を対象とした、地震災害に対する備えや地震災害時の行動に関するアンケート調査を実施し、乳幼児を取り巻く主体である教職員・親の大規模地震災害時の行動を把握・分析することを目的とする。

2. 既往研究

これまでに認定こども園・幼稚園・保育園を対象にまたは乳幼児を持つ親を対象に、防災対策や災害に対する意識に関する調査研究は数多く行われている。

清水、千葉³⁾は、全国の幼稚園・保育園・認定こども園の災害対策や災害マニュアルにおける違いの有無を明らかにし、マニュアル作りにおける資料やサイトの閲覧の関係を明らかにしようと試みた。調査の結果、保育園は文部科学省が発信している安全管理マニュアルや防災マニュアル作成の手引きサイトを見ておらず、また、災害発生から保護者の引き渡しまでを見通したマニュアルではなく、幼稚園は、保育の場面に対応したマニュアルになっておらず災害マニュアルに含まれる内容が乏しいことを明らかにした。

佐野、糟谷⁴⁾は、東日本大震災を経験した福島県の一部幼稚園・保育園を対象とし、そこに通園している乳児・幼児の母親の災害への「備え」の現状を明らかにし、乳児・幼児を育てる家庭における防災・減災への支援の在り方を検討した。調査の結果、9割以上の母親が災害に対して「備え」を実践しており、備蓄に関する備えは多い一方、乳児・幼児との緊急時の連絡に関する備えは少ないことを明らかにした。また、乳児・幼児を持つ家庭への防災・減災への支援として、保護者および乳児・幼児に対する防災教育等、家庭内における連絡方法等の「備え」の行動化に向けた支援が必要であることを示唆した。

松澤ら⁵⁾は、東京都及び近郊と新潟県に住む乳児・幼児を保育園に預けている母親を対象に質問紙調査とインタビュー調査を行った。調査の結果、職場や地域の防災訓練に参加することが防災への意識を高め、すすんで防災訓練へ参加するという姿勢を作り出しているが、乳児・幼児の母親の防災訓練の参加は半数以下であり、全体的に防災訓練が軽視さ

れている可能性が高いことを推測した。また、乳児・幼児を持つ母親は、災害時にとるべき対応については理解しているが、災害時の備えは低いことを明らかにしている。

本多、村松⁶⁾は、幼保施設の防災対策の詳細な把握を目的としたアンケート調査を山梨県の幼保施設を対象に実施した。山梨県の幼保移設の防災対策の全体把握として、保育所、幼稚園、子ども園間の防災対策の全体的な傾向は類似していることを明らかにした。山梨県の保育所、幼稚園、子ども園では、防災意識が高いことが示唆されたが、「災害時の心のケア」に関する防災対策の実施率が低く、「災害時の心のケア」対策に関する知識が不足している施設が多いことも示唆した。また、子どもの引き渡しや防災教育に関する情報が保護者に開示される一方で、平常時の安全管理、物資の備蓄、非常時の組織体制に関する保護者への情報の開示が不足していることを明らかにした。

以上のように、園の防災対策や防災マニュアルに関して、教職員の災害に対する意識や震災後の意識の変化、親の災害に対する意識や防災意識といった乳幼児を取り巻く環境下における主体をそれぞれ個別に分析したものが多く、教職員・親の主体間のつながりを分析したものはない。また、地震災害発生後の乳幼児を取り巻く主体の避難行動に関する研究も存在しない。

本研究では、石川県内の認定こども園・幼稚園・保育園の教職員と、対象園に子どもを預ける親を対象にアンケート調査を実施し、防災意識のみならず、地震災害発生時の行動に関して、乳幼児を取り巻く環境下における主体を個別にではなく、主体間のつながりで分析する。

3. アンケート概要

石川県内の認定こども園・幼稚園・保育園の地震災害に対する防災対策の現状を把握するために実施したアンケート調査の際に、ご協力を頂けた教職員・親を対象に子どもの防災に関するアンケート調査を実施した。

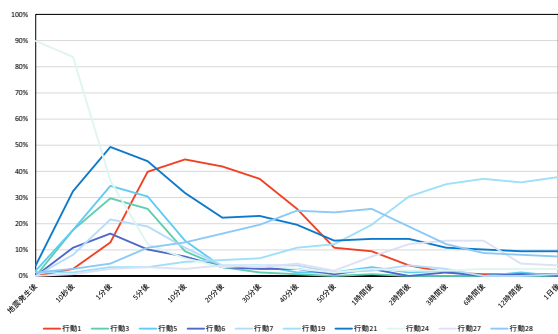


図-3 親の地震災害時の行動(2次災害理解度高)

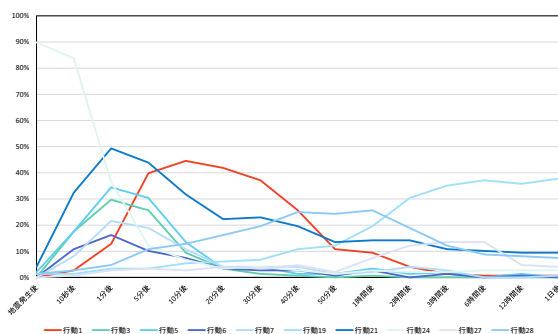


図-4 親の地震災害時の行動(2次災害理解度低)

本研究では、親の大規模地震災害時の行動に関して分析を行った。親の中でも地震災害によって発生する2次災害に対する理解度の違いで大規模地震災害時の行動割合の比較を行った。図-3に地震災害によって発生する2次災害に対する理解度の高い親の大規模地震災害時の行動割合、図-4に地震災害によって発生する2次災害に対する理解度の低い親の大規模地震災害時の行動割合を示す。図-3、図-4の共通点として、地震発生直後に最も割合の高い行動は「身の安全を守る」であった。また、地震発生10秒後から地震発生5分後にかけて「身の安全を守る」の行動割合が急激に減少し、地震発生10分後には1割を下回ることが明らかとなった。地震発生直後から「子どもを預けている園に電話（通話）する」「夫（妻）に電話（通話）する」の行動割合が増加し、地震発生1分後に最も高い割合となる。しかし、地震災害によって発生する2次災害の理解度が低い親の「子どもを預けている園に電話（通話）する」「夫（妻）に電話（通話）する」の行動割合が5割近くに達するのに対して、理解度の高い親は行動割合が4割に満たないことが明らかとなった。図-3、図-4とも、地震発生1分後から「子どもを預けている園に行く」の行動割合が増加し始めるが、震災によって発生する2次災害の理解度が高い親は地震発生10分後に最も高い割合となるのに対して、震災

害によって発生する2次災害の理解度が低い親は地震発生20分後に最も高い割合となり、子どもを迎えに行く時間に違いがあることが明らかとなった。

5. まとめと今後の課題

大規模地震災害が多発している我が国において、防災対策は急務であり、中でも災害弱者に対する防災対策はより重要である。本研究では、災害弱者の中でもより自力での避難が困難となる乳幼児を取り巻く親・幼稚園・保育園の教職員を対象とし、防災意識や地震災害時の行動に関するアンケート調査を実施した。本研究では、親を地震災害によって発生する2次災害に対する理解度の違いによって分類し地震災害時の行動に関する分析を行った。共通点として地震発生直後は「身の安全を守る」が最も高い割合となることが明らかとなった。一方で「子どもを預けている園に行く」の割合が最も高くなる時間に若干の差があることが明らかとなった。

今後の課題として、本研究では紙面の都合上、乳幼児を取り巻く環境下の主体の1つである親の地震災害時の行動に関する基礎的分析しか示すことが出来なかった。親と教職員の行動の比較、親・教職員の行動の詳細な分析については発表時に示す。

参考文献

- 1) <回顧 3.11 証言> 迫る津波「待機」なぜ http://www.kahoku.co.jp/special/spe1168/20170309_01.html 2018年1月23日閲覧
- 2) <アーカイブ大震災> 園児の命 脚立が救う http://www.kahoku.co.jp/special/spe1168/20160316_01.html 2018年1月23日閲覧
- 3) 清水益治, 千葉武夫: 幼稚園・保育所・認定こども園における災害マニュアルの実態, 帝塚山大学現代生活学部紀要, 第12号, 75~84, 2016
- 4) 佐野法子, 糟谷知香江: 被災した乳幼児の行動の変化—福島県いわき市における保育士・幼稚園教諭への調査から—, 日本小児看護学会誌, Journal of Japanese Society of Child Health Nursing, Vol.23, No.1, p.15-21, 2014
- 5) 松澤明美, 白木裕子, 津田茂子: 乳幼児を育てる家庭における災害への「備え」—東日本大震災を経験した通園時の母親への調査より—, 東京学芸大学紀要, 総合教育科学系II, 第63集, 2012
- 6) 本多明生, 村松真衣: 山梨県の幼保施設における防災対策の実態調査, 地域安全学会論文集, No.29, 2016.11